

〔課程-2〕

審査の結果の要旨

氏名 梶原 晴香

本研究は、ヘリコバクター・ピロリ除菌後の胃食道逆流症の発症および経過に関する臨床的特徴を明らかにするため、*H. pylori* 除菌療法が内視鏡的 GERD に及ぼす短期的・長期的検討および *H. pylori* 除菌療法が逆流関連症状に及ぼす短期的・長期的検討を行っており、下記の結果を得ている。

1. 除菌療法成功例で **Grade M** 以上の内視鏡的 GERD は、除菌療法前 6.5% に対し除菌療法 1 年後 15.9% と、統計学的に有意な増加を認めたが、除菌療法失敗例ではこの傾向はなく、除菌療法成功例で短期的に内視鏡的 GERD が増悪する可能性が示唆された。
2. 除菌療法 5 年後までの検討では、除菌療法成功例で内視鏡的 GERD は経年的に増悪する傾向にあったが、除菌療法失敗例ではこの傾向は見られず、除菌療法成功例で長期的に内視鏡的 GERD が増悪する可能性が示唆された。
3. 除菌療法後の内視鏡的 GERD の発生に関わる因子に関する検討では、除菌療法 1 年後に **Grade** が 1 段階以上進行する症例は 127 例中 18 例 14.2%、2 段階以上進行する症例は 127 例中 9 例 7.1% であり、増悪に関し、統計学的に明らかな因子は認めなかったが、**Grade** が 2 段階以上進行する症例はいずれも除菌成功例であり、9 例全例で肥満・喫煙など、逆流性食道炎の何らかの危険因子を有することが示唆された。

4. 3ヶ月後の逆流関連症状は、除菌療法成功例で22.2%、除菌療法失敗例で6.5%と、除菌療法成功例で悪化することが示され、多変量解析の結果からも、除菌療法のみが短期的な逆流関連症状の増悪に関与することが示唆された。
5. 3か月後に逆流関連症状の増悪を認めた例については、7年後も3ヶ月後とスコアの有意差がなく、除菌療法前より逆流関連症状が悪いことが示された。
6. 除菌療法成功例において、除菌7年後は、逆流関連症状が持続して増悪している群と、新たに増悪した群とがあり、経年的に増悪群が増加していく可能性が示唆された。
7. 除菌療法により内視鏡的GERDと逆流関連症状はそれぞれ、13.6%、10.2%の悪化を認めたが、逆流関連症状調査の平均約9ヵ月後に内視鏡検査を行っており、直接の比較は困難であるものの、内視鏡増悪8例中症状増悪1例、症状増悪6例中内視鏡増悪1例であり、相関関係は示されなかった。

以上、本研究は、国によって異なり、はっきりした意見の一致が得られていない除菌療法後の胃食道逆流症の発生に関して、内視鏡所見(内視鏡的GERD)と自覚症状(逆流関連症状)の2つの側面から検討し、その結果、除菌療法の成功が、ヘリコバクター・ピロリ除菌後の胃食道逆流症の短期および長期の増悪に寄与することが示唆された。本研究はヘリコバクター・ピロリ除菌後の胃食道逆流症における病態の解明に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。